

1 対象機関の概要

所在地 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地

設立年 昭和24年

沿革

昭和24年5月31日、国立学校設置法により、旧制の徳島師範学校、徳島青年師範学校、徳島医科大学、徳島医学専門学校、徳島高等学校及び徳島工業専門学校を包括して学芸学部、医学部及び工学部からなる徳島大学が設置された。

昭和26年4月1日、薬学部が設置（工学部薬学科は廃止）された。

昭和40年4月1日、教養部が設置された。

昭和41年4月1日、学芸学部は教育学部と改称された。

昭和51年10月1日、歯学部が設置された。

昭和61年4月22日、教育学部を改組して総合科学部が設置された。

平成5年3月31日、教養部が廃止され、一般教育に関する教育は、全学共通教育として総合科学部が中心学部となり、全学部が協力して行うこととした。

平成11年4月1日、全学共通教育センター（学内措置）を設置した。

学部構成・学部学生数

（平成12年5月1日現在）

学部名	入学定員	学生数
総合科学部（2学科）	270	1,189
医学部（2学科）	145	784
歯学部	55	366
薬学部（2学科）	80	354
工学部		
昼間コース（7学科）	555	2,642
夜間主コース（6学科）	100	493
工学部小計	655	3,135
合 計	1,205	5,820

注 上記入学定員以外に工学部3年次編入入学定員（40人）がある。

教員数（現員）

（平成12年5月1日現在）

学部等	教授	助教授	講師	助手	計
学部	232	158	127	284	801
その他	29	24	10	21	84
計	261	182	137	305	885

注 学長は、その他の欄の教授に含めた。

2 教養教育に関する考え方

徳島大学では、各学部が4年間または6年間の一貫教育の観点で、全学共通教育を含む、それぞれに特色ある教育課程を編成している。そこでの教養教育は（A）幅広い教養を身につけるための教育（人文・社会・自然科学の諸学問分野をバランスよく学ぶ）及び（B）専門教育を視野に入れた基礎的知識と方法の習得のための教育（専門に近い分野の基礎的科目も含め、広い学問分野にわたる分析的・批判的な思考力、創造的な発想を養う）の二つの側面を持つ。

以下に各学部が共通教育をどのように位置付けているかを略述する。

（総合科学部）総合科学部は、総合性と専門性を兼備した人材を育成することを目標としており、個別科学の枠を超えて現象を様々な角度から有機的に関連付けながら見る能力、加えて高い倫理性と責任感を養う教養教育が必要不可欠と位置付けている。

（医学部）医学科は、人間性豊かな医師、創造力ある医学研究者の養成を、また、栄養学科は、栄養行政、栄養学教育研究、臨床栄養などの諸分野において社会に貢献する人材の育成を目指している。このように医学部での教育・研究の対象は人間に関わる多様な側面を含んでおり、専門知識、技術の教育のみならず、高い倫理観と責任感を養うための幅広い教養教育は不可欠である。

（歯学部）歯学部での教育・研究の対象は、歯科固有の疾患のみならず、ライフサイエンスとして広がりを持っている。この観点から、自然・人文科学の基礎を修得させるとともに社会的常識と倫理の基礎を養う教養教育はきわめて重要である。

（薬学部）薬学分野は近年ますます高度化し多様化しつつある。そこでは医療の原点であるヒューマニティに基づいた高い専門性とそれらを俯瞰し総合できる能力が要請されており、総合的な判断力を養い豊かな人間性を涵養するうえで教養教育の持つ意味は極めて大きい。

（工学部）科学技術がますます高度化・多様化する中で、工学部7学科の教育内容は多様であるが、工学は本来、人間・社会と技術との関わりを第一に問題とする分野であり、この点から人間形成のための教養教育は専門教育に劣らず重要であると考えている。

徳島大学では、以上のような各学部の考え方に基づき、すべての学部が全学共通教育の実施について応分の責任を持ち、その授業科目を全学に対して積極的に開放する努力をしている。また時間割の上でも、一貫教育のカリキュラムが編成できるよう配慮している。

3 教養教育の目的及び目標

徳島大学は基本理念として、1) 学生の多様な個性を尊重し、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門能力を身につけ、進取の気風に富む人材の育成をめざす。2) 知の継承と創造に挑み、独創的で、実り多い研究を推進し、豊かで健全な未来社会の創成に貢献する。3) 国際化と地域重視の時代に向けて、地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点として、平和で文化的な国際社会の構築と地域社会の活力ある発展に寄与する、ことをあげている。

このような大学の基本理念のもとで、全学共通教育には次のような目標が掲げられている。

- (1) 人間としての幅広く、深い教養を身につける。
- (2) 諸学問の履修を通して多面的、総合的、自立的な判断能力を養い、現代社会の諸問題解決のための分析的、批判的、創造的視点の確立を目指す。
- (3) 異なった専門を志向する学生が共に学ぶことによって、専門の枠を越えた豊かな人間性を涵養する。
- (4) 諸学問に対する関心を高め、様々な学問分野の認識方法と関連性を学び、学問への取り組み方を身につける。
- (5) 基礎的な学問を履修し、より専門的な、あるいは応用的技術的な学問の学習と研究のための基礎的知識を身につける。

各学部においては、全学共通教育の教育目的・目標をそれぞれ以下のように規定している。

(総合科学部)

総合科学部では、幅広い総合的・学際的・複合的な知識と能力を身につけ、かつ専門領域において深い知識と創造力を兼ね備え、総合的観点から複雑化した人間社会や自然に関する諸問題を解決できる教養人を養成することを目的としている。

この目的のために、次のように教養教育の目標を設定している。

- (1) グローバル化する社会のリーダーとして必要な責任感と倫理観を兼ね備えた豊かな人間性を養う。
- (2) 総合性と専門性を兼ね備えた人材養成に必要な総合的・学際的思考力や創造力を培うため、幅広い、深い教養を習得する。
- (3) 専門教育に必要な問題発見・認識・関連能力を涵養するため、有機的連携に基づく確かな教養を習得する。
- (4) 国際化・情報化社会に対応できる言語能力・情報活用能力を養う。

(医学部)

医学科学生が卒業までに基本的な臨床能力及び基礎

的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、研究、保健・福祉活動を通して社会に貢献し、医学の発展に寄与することができるようになることを目指している。

この目的のために医学科学生が達成すべき5つの目標を設定している。

- (1) 科学的根拠に基づいた医療・研究を行えるように自己開発と自己評価の習慣を身につける。
- (2) 医師として必要な基本的な技能、知識態度を身につける。
- (3) 医師として倫理観、責任感を養い、他者を理解しいたわる人間性を身につける。
- (4) チーム医療・研究活動を円滑に遂行できる能力と習慣を身につける。
- (5) 国際的視野を養い、医療・医学の国際化に対応できる能力を身につける。

この目標を達成するために共通教育では、

- (1) 自学自習する能力を身につける教育
 - (2) 医師になるための基礎学力、特に、基礎生物の教育
 - (3) 医師としての態度や他者をいたわる人間性を身につけるための、医師になる動機付けの教育
 - (4) 国際的視野を養うための語学教育と国際交流
- の4点が重要であると考えている。

栄養学科は、将来、栄養行政、公衆栄養分野、臨床栄養分野、教育研究分野など、多分野で人との交流を介して活躍することが期待される。したがって、教養教育の目的は心暖かい人格を形成して、人との交流を図る基盤を習得することである。したがって、

- (1) 優しい豊かな人間性を確立するための教養を身につける。
 - (2) 人とのコミュニケーションを円滑にする幅広い教養を身につける。
 - (3) 国際的に活躍できるための語学能力を身につける。
 - (4) 現象を多面的にとらえる思考力を身につける。
- ことを目標としている。

(歯学部)

近年の歯科医学においては、歯科固有の疾患への対応のみならず、生体材料、自己免疫疾患、骨軟骨疾患、癌等の学際的研究が大きくクローズアップされてきている。このような現状を背景として、歯学部は歯科医師養成のみならず、ライフサイエンスの一端を担う部局と位置づけられる。

歯学部は、この観点に立って全学共通教育と専門教育との有機的な結合を模索しており、全学共通教育の目標を次の点においている。

- (1) 学生が専門教育を深く理解し、将来ライフサイエ

ンスの分野で国際的に活躍できる有能な人材になれるように、自然・人文科学における基礎を習得させること。

- (2) 医療従事者としての社会的常識と倫理の基礎を養うこと。

(薬学部)

薬学教育の目的は、豊かな人間性をもった優れた薬剤師を養成するとともに、種々の薬学関連分野において総合的な知的能力を有するリーダーを育成し、薬の専門家として、国民が健康で豊かな生活を送るために必要なチーム医療に貢献できる人材を養成することにある。全学共通教育もこの一連の流れの中でとらえており、薬学部が目指す共通教育の目標は、このような人間性豊かな教養を身につけた薬学人を育成することである。

(工学部)

科学に関する知識を駆使し、豊かな人間性と国際的な視野をもって、環境に対する影響を予見しながら、社会に貢献できる自律的な技術者を育成することを目的としている。この目的のために、工学部では、以下に掲げる目標を設定している。

- (1) 工学の基礎教育に重点を置き、科学の基本を理解し、問題の科学的取り扱い方を習得する。
- (2) 問題発見および解決能力を養い、さらに独創性豊かな創造的研究開発能力を養成する。
- (3) グローバル化や情報化の進む新しい時代に対応できるコミュニケーション力を備え、国際社会に対処できる能力を養成する。
- (4) 倫理観や責任感を兼ね備えた広い視野をもった科学技術者を養成する。

4 教養教育に関する取組

(1) 実施体制

徳島大学では、平成5年度より一般教育を全学共通教育に改め、総合科学部を中心学部として全学的協力のもとに実施している。全学共通教育の実施には、「大学教育委員会」と「全学共通教育センター」とが責任をもつ。大学教育委員会は、副学長（教育担当）、各学部長、各学部教務委員会委員長、全学共通教育センター長、全学共通教育副センター長、大学開放実践センター長、医療技術短期大学部部長、医療技術短期大学部教務委員長より組織される。大学教育委員会の所掌事項は、（１）全学共通教育を中心とした大学教育の基本方針、（２）収容定員に応じた教員定員の配分、（３）共通教育の実施に係る予算、（４）共通教育の実施に必要な施設、設備、（５）その他共通教育を中心とした大学教育に関する重要事項、の５項目である。平成11年度より、共通教育の実施の責任主体及びその責任者（センター長）を明確にすることを目的として、「全学共通教育センター」（学内措置による設置）を設置し、共通教育の計画実施にあたっている。「全学共通教育センター」は、共通教育の実施、運営、及び教育方法等の研究のための教育研究機関である。「全学共通教育センター」では、授業科目の開設、時間割の計画がより直接的に行われるようにするために、基礎教育部会、外国語教育部会を設け、授業科目あるいは分野の代表を併任として加えることで、共通教育の運営へのより直接的な参画が可能となるような体制を目指している。

学則29条の3で、「共通教育の授業科目は、総合科学部が中心学部となり、全学が協力して開設する。」と規定している。総合科学部が90パーセントの授業を提供しており、残りの10%の授業（教養科目の中のゼミナール、学部開放分野、総合分野）を各学部の教員が行っている。

全学共通教育の中心学部である総合科学部は、「総合科学部全学共通教育協議会」を設置し、総合科学部の協力・支援を確保する体制をとっている。具体的なカリキュラム編成作業は全学共通教育センターによって行われるが、その内容は総合科学部の各科目代表者からなる「総合科学部全学共通教育協議会」において検討される。

平成7年度には全教官と学生を対象に全学共通教育の管理運営体制、教育活動、実施状況、運営予算、厚生補導ならびに施設設備と環境についてアンケート調査を行った。その結果及び分析は、「徳島大学全学共通教育一新たなる教養教育をめざして」（平成8年1月）にまとめられた。この結果をうけてカリキュラムや運

営方法の改善を重ねてきたが、平成9年度には、さらに学生による授業評価と外部評価を実施した。報告書「私たちの全学共通教育」（平成10年3月）には、１）各教官の授業の仕方、内容等についての学生側からの評価、及び、２）学生自身の授業に対する取組み等についての自己評価の結果の分析がまとめられている。

外国語教育については、平成10年度に教員を対象としたアンケート調査を行なった。平成11年度にはこの結果を受け、英語及び初修外国語について、全学共通教育の外国語授業を現在受講中あるいは過去に受講した学生の意見を集約し、今後の外国語教育改善の資料とするためのアンケート調査を行った（平成12年3月「外国語教育改善のためのアンケート調査報告書」を刊行）。現在、このアンケート調査の結果の分析を踏まえつつ、外国語教育改善の方策を検討中である。

また、徳島大学では、全学共通教育に関わるファカルティ・ディベロップメント活動を、毎年数回にわたって行っている。

そこで取り扱われてきた問題点は以下のとおりである。

- （１）学生の授業評価などをふまえた、学生の観点からの授業改善の可能性
- （２）外国語教育の目標設定と履修制度の改善
- （３）全学共通教育の全般にわたる制度的改善の可能性
- （４）学生が積極的に参画・参加できるための授業づくり
- （５）専門教育と全学共通教育をいかに有効に関係付けるか
- （６）新しい情報教育の必要性和可能性
- （７）大学の大衆化・入試制度の変化に伴う新しい学生像への対応

そのほか、年1度、全学から参加者を募り、「全学共通教育懇話会」を開催し、全学的な視野からの提言を聞く機会も設けている。

(2) 教育課程の編成及び履修状況

全学共通教育の授業科目は次の5つのカテゴリーに分類される。(平成13年度より実施)

- 1 教養科目
- 2 外国語科目
- 3 健康スポーツ科目
- 4 基礎教育科目
- 5 日本語科目及び日本事情に関する科目

(教養科目)

教養科目の履修は選択必修制であり、人文科学、社会科学、自然科学、情報科学、総合分野、学部開放分野の各分野から構成される。また各授業科目の内容は、理系の学生用、文系の学生用というようには区別されていない。教養科目の修得単位数は、16－24単位までの範囲で、学部または学科ごとに定められている。それぞれの所定の単位数の中で、理系の学部または学科の学生であっても、人文科学分野と社会科学分野からの一定単位数以上の授業料日の履修を義務付けているが、残りは学生の自由選択に任されている。

1) 人文科学分野

授業科目	授 業 題 目
哲 学	人間と世界、哲学の諸問題など
倫 理 学	倫理と社会、哲学的倫理学入門など
日 本 史	日本の歴史、日本の社会と文化など
外 国 史	アジアの歴史、アメリカ世界の展開など
日本文学	日本の文学など
日本語学	日本の言語
外国文学	アジアの文学、ドイツの文学など
考 古 学	考古学概論
芸 術	書道文化概論、日本美術史など
文化人類学	文化と社会
人文科学ゼミナール	

鍵盤楽器の文化と歴史

2) 社会科学分野

授業科目	授 業 題 目
法 律 学	法と市民生活、憲法と人権など
政 治 学	政治学入門、国際政治学入門
社 会 学	社会学概論、近代化と人間など
経 済 学	経済学、資本主義の歩みなど
経 営 学	商品開発と広告、経営学入門など
地 理 学	地域と地図、地域と社会など
心 理 学	入門心理学、心の科学など
教 育 学	教育とは何か、青少年と教育など
社会科学ゼミナール	
	知識と情報、社会科学の夢など

3) 自然科学分野

授業科目	授 業 題 目
数 学	数理の世界、数学概論など
物 理 学	相対論入門、現代の物質論など
化 学	現代の化学、化学と社会など
生 物 学	現代の生命観、DNA 物語など
地 学	地球と地層の科学、地球の歴史など
自然科学ゼミナール	
	遺伝と人間、薬と情報など

4) 情報科学分野

コンピューターリテラシーを中心に倫理にも力点を置き、全学の1年生を対象に行う授業で、小型計算機利用論やコンピューター概論などが開講されている。

授業科目	授 業 題 目
情報科学	小型計算機利用論、情報処理など

5) 総合分野

複数の授業科目または複数の学問分野にまたがる内容をもつ授業科目で、ある主題のもと、様々な学問分野が総合的に組み合わせられた授業が開講されている。

授業科目	授 業 題 目
総合科目	食と健康、科学技術と人間など

6) 学部開放分野

一般教養的内容と専門的内容を併せ持つ教育の授業科目区分に入るものとして、学部開放分野がある。

教養科目の中に入っている科目であるが、各学部が開講する授業の中で他学部、他学科の学生に教養科目として提供できると判断される授業を各学部が提供するもので、それぞれの学部固有の専門性に基づく教養科目である。総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部の全学部から開講されている。

開講学部	授 業 題 目
総合科学部	ヨーロッパ思想研究、機能生理学など
医 学 部	生命・健康・病気
歯 学 部	歯学概論、口腔と健康など
薬 学 部	生化学1、薬品物理化学1など
工 学 部	建設工学総論、光の基礎など

(外国語科目)

外国語科目は、8－16単位の範囲で、どのように履修させるかは学部または学科ごとに定められている。目的別クラス・コース等は特に設けていないが、英語では、各学部学科の時間帯に複数の授業を開講し、学生が授業を選択できる制度を早くから導入し、現在も実施している。具体的には、平均受講生50名に見合った教官を各学部の英語の時間帯に割り当て、各教官は

自分の授業内容に関する授業概要（授業の目的・趣旨、授業の内容、教科書、その他受講上の注意を含む）を作成する。学生は、各教官の授業概要を読み、各自の興味に合った授業を選択する。（ただし、最初の授業時間帯に受講者数の調整を行うので必ずしも希望の授業を受講できるとは限らない。）

分野 授業科目

英語：英語（１）、英語（２）

ドイツ語：ドイツ語（１）、ドイツ語（２）

フランス語：フランス語（１）、フランス語（２）

中国語：中国語（１）、中国語（２）

（健康スポーツ科目）

各種スポーツの実習と健康科学やスポーツに関する理論を内容とし、少なくとも２単位を必修としている。

健康スポーツ実習

健康スポーツ演習

（基礎教育科目）

総合科学部以外の学部の特修のために必要な基礎を学ばせることを目的とした科目。基礎数学、基礎物理学、基礎化学、基礎生物学の４つを開講。基礎教育科目は、各学部ないし学科ごとに定められている。担当教官には総合科学部の教官に加えて、受講学生の所属する学部、学科の教官が含まれる。

授業科目 授業題目

基礎数学 線形代数学、微分積分学など

基礎物理学 物理学概論、基礎物理学実験など

基礎化学 有機化学、基礎化学実験など

基礎生物学 基礎生物学Ⅰ、基礎生物学実験など

（日本語科目及び日本事情に関する科目）

外国人留学生を対象とした科目である。日本語科目は外国語科目に、日本事情は教養科目に読み替えることができる。

分野 授業科目

日本語 日本語（１）、日本語（２）

日本事情 日本事情

学生の学力の多様化に関する対応策であるが、特に、補習と位置付けての講義は行っていない。

また、現在のところその予定もない。ただし、基礎教育を行っている教員に対し、「受講生の中に高校での未履修者がかなりいることを認識し、必要に応じてかみ砕いて講義するよう」依頼しており、実際、そのような講義がなされている。

(3) 教育方法

(授業形態)

全学共通教育は、主として講義科目、演習科目およびゼミナールからなっている。基礎教育科目（物理、化学、生物）についてのみ実験を行っている。

(学習指導法)

入学式直後の全学オリエンテーションにおいて、教養教育並びに基礎教育の重要性を、全学共通教育センター長自ら、学生に対して指導している。各学部オリエンテーションにおいては、センター長から各学部長に対して、教養教育、基礎教育及び専門教育の一貫教育の立場をふまえ、専門の基礎となる全学共通教育の重要性・必要性が、各学部の実状に基づき、説明され、また指導されている。学期始めに、各学部教務委員会が履修相談室を設け、学生の履修相談に応じている。また、新入生合宿研修において、学部学科紹介と学習指導に力点を置き、その一つとして質問コーナー及び時間を開設し、学習指導を行っている。

(学習環境)

本学の全学共通教育では、定員160人以上の講義室は設けられていない。教養科目の1クラス受講者数を60名、外国語科目と基礎教育科目では各々50名を目標値として設定して、時間割の編成を行っている。しかし、外国語科目を除いてはその目標を達成できていない。教室の割り振りなどについては、次のような原則による。

- (1) 講義内容、方法等に関する授業担当教官の意向を尊重した教室の割り振りを行う。
- (2) 受講希望者が多い場合には、授業担当教官に相談の上、教室の最大収容定員数までの受講を許可する。場合によっては、最大収容定員数のより大きい教室への変更を行う。
- (3) 教室の最大収容定員数を超えて受講希望者が来た場合には、やむを得ず受講制限を行う。受講者数制限にあたっては次の項目を優先する。

- 1) 3年次以上の学生
- 2) 可能な限り再受講生には配慮をする。

外国語科目についても、より少人数教育を実現すべく、時間割の編成などを検討中である。

1クラス20名程度の受講生を対象としたゼミナール形式の科目を人文・社会・自然の各分野に設定し、平成12年度は、人文科学分野3クラス、社会科学分野5クラス及び自然科学分野13クラス開設している。

視聴覚機器の設置などについては、全教室にビデオ、モニターを設置している。また、視聴覚教室を2室、外国語演習室を2室設けている。

(成績評価法)

成績評価法については、以下の規定を設けている。

- (1) 成績の評価は、試験、レポート、学習状況などによる。
- (2) 成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格、60点未満は不合格となる。
なお、成績証明書には80点以上が「優」、70～79点が「良」、60～69点が「可」として記載される。
- (3) 試験は、原則として前期・後期の学期末に行われ、授業時間数の2/3以上出席していなければ受験資格を失う。

なお、試験を欠席した者は追試験対象者以外は再受講となる。

また、非常勤講師を含む全学共通教育担当教員に次のような趣旨の依頼文書を送付している。

- (1) 学生に対して授業に参加するだけではなく、一定以上の授業時間外の学習（十分な準備学習および事後学習）を求めること。
- (2) これに対応して教員側も、期末試験のみではなく授業の進行にあわせてレポートの提出を求める、ミニテストを繰り返すなどの工夫をし、成績についても、レポート・ミニテスト・期末試験・出席状況などにより多面的に評価すること。

なお、履修単位数の上限設定と合わせGPA評価を導入している学部（工学部）もあり、今後はこの方向性をさらに検討していくことになろう。

学生の参加を促す授業形態を、ファカルティ・ディベロップメントの課題としてとりあげ、研究中である。詳細については「4 教養教育に関する取組」を参照のこと。

5 変遷及び今後の方向

全学共通教育の実施・執行については、1999年（平成11年度）より、それまでの運営委員会方式を全学共通教育センターを中心とした方式に切り替えた。しかしこの間、学力のあり方を含め学生を取りまく諸状況が急速に変化しつつあること、さらに医療技術短期大学部が医学部保健学科へと改組されるのに伴う諸改革の必要性がでてきたことなどにより、運営方式について、さらなる改革が求められるに至っている。そのことをふまえ、高校教育と大学教育との接続の強化、共通教育と専門教育との有機的連携の強化、大学における教育方法の研究開発などについて研究し実践するための組織として、大学教育研究実践センターの設置とそこへの共通教育センター機能の移行を検討中である。

今後の大きな検討課題としては次のような点が挙げられる。

（1）教養科目のカテゴリーの見直し

平成3年に改正された大学設置基準の大綱化の骨子は、従前の教養教育と専門教育の垣根をなくし、4（6）年間一貫教育を実施することであった。徳島大学でも教養部を廃止したが、教養教育の単位数が減少したことを除き、授業の枠組みは大きく変わってはいない。教養部では教養科目として、人文科学12単位、社会科学12単位、自然科学12単位を堅持してきたが、教養部廃止に伴ってこれらが各6単位に削減された。しかし、このような教養科目のカテゴリーが時代の要請に即したものであるか、学生のニーズにマッチしたものであるかを見極めつつ、大胆な改革を行うことが求められている。

（2）情報教育の拡充

情報教育の全学必修化を目指し、コマ数の確保、非常勤講師の確保等を行うと共に、工学部の一部を除いて、ほとんどの学生の履修が可能となった。平成12年度の時間割ではほぼ全学の学生が受講可能な状態になっている。今後、情報教育を基礎教育の一環としていかにカリキュラムに位置付けるかが検討課題として残されている。

（3）外国語教育の改善

全学共通教育センターでは、平成11年度に全学の学生を対象に「外国語教育改善のためのアンケート」調査を行った。この結果は、3月に刊行された「外国語教育改善のためのアンケート報告書」としてまとめられている。このアンケート調査で明らかとなった全学共通教育外国語科目の問題点をいかに改善してゆくかが今後の課題である。またこの年に、外国語技能検定制度による単位の認定と短期留学による中国語の単位

の認定制度を開始した。13年度からは、放送大学との単位互換制度の対象として外国語科目も加えることとした。外国語の短期海外研修による単位認定の制度を整備することをめざし、武漢大学及び復旦大学における中国語の研修に加え、学術協定締結校である英国ウェールズ大学スウォンジー校等における英語研修、ドイツのゲーテ・インスティトゥートでのドイツ語研修なども本学の全学共通教育の単位として認定することとしている。

今後は、より多くの授業担当者（分野あるいは授業科目の代表者など）が共通教育の運営に参画して、より直接的な関わりを形成することが望まれる。文理融合・文工融合の教養教育は21世紀の高等教育には必須である。総合科学部のみならず医学・歯学・薬学・工学などの学部専門教育との関係においても、自然系・人文系・社会系を組み合わせた教養教育は欠かすことができない。この意味で、全学共通教育の9割を担っている総合科学部と全学共通教育センターがさらに連携を深めつつ、21世紀に相応しい全学共通教育のあり方を追求していかなければならない。

4-2-3 一般教養に関する教育の授業科目区分と卒業要件との関係

(1) 設問2-3で(1)に分類した授業科目区分名及び卒業要件単位数を記入してください。

授業科目区分名	学部名	単位数
人文科学分野	薬学部	6
	工学部(昼間コース)	
	生物工学科	
	総合科学部	4
	医学部	
	歯学部	
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	化学応用工学科	
	生物工学科	
社会科学分野	薬学部	6
	工学部(昼間コース)	
	生物工学科	
	総合科学部	4
	医学部	
	歯学部	
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	化学応用工学科	
	生物工学科	

自然科学分野	歯学部	8
自然科学分野、総合分野又は学部開放分野	総合科学部	4
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	4
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
人文科学分野、社会科学分野又は総合分野	医学部	8
	歯学部	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	4
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
英語	薬学部	10
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	8
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
	工学部(夜間主コース)	
英語	医学部	4
	歯学部	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	2
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	

工学部(昼間コース)	建設工学科	6
	機械工学科	
	電気電子工学科	
	生物工学科	4
	化学応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
ドイツ語	歯学部	4
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	6
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
ドイツ語、フランス語又は中国語	医学部	4
	歯学部	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	4
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
外国語科目	総合科学部	12
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	8
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
健康スポーツ演習	総合科学部	2
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	1
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
健康スポーツ実習	薬学部	3
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	2
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	

総合科学部	医学部	1
歯学部	工学部(昼間コース)	
工学部(夜間主コース)	建設工学科	
基礎数学	総合科学部	8
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	4
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
基礎物理学	薬学部	6
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	3
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
基礎化学	医学部	2
	歯学部	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	4
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	

薬学部	薬学部	6
医学部	医学部	5
歯学部	歯学部	
工学部(昼間コース)	工学部(昼間コース)	
建設工学科	建設工学科	2
化学応用工学科	化学応用工学科	
生物工学科	生物工学科	
基礎生物学	医学部	4
歯学部	歯学部	
工学部(夜間主コース)	工学部(夜間主コース)	
基礎数学及び基礎物理学	化学応用工学科	4
生物工学科	生物工学科	
	生物工学科	

(2) 設問2-3で(2)に分類した授業科目区分名及び卒業要件単位数を記入してください。

授業科目区分名	学部名	単位数
学部開放分野(教養科目)	総合科学部	0~6
	医学部	
	薬学部	
	工学部(昼間コース)	130
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
英語	総合科学部	34
	工学部(昼間コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	40
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	
英語	医学部	4
	歯学部	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	2
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	光応用工学科	
	工学部(夜間主コース)	
	建設工学科	
	機械工学科	
	化学応用工学科	
	電気電子工学科	
	知能情報工学科	
	生物工学科	

注：単位数欄の「0~6」は、学部開放分野が教養科目の中の1分野であり、同分野は卒業要件の必修科目でなく選択科目となっており、選択した場合は最高6単位まで卒業要件として算入できるため、その単位数を示す。

学部名	単位数
歯学部	207
医学部	205
薬学部	131
総合科学部	130
工学部(昼間コース)	128
工学部(夜間主コース)	124

1. 卒業要件単位数を記入してください。

2. 一般教養に関する教育の授業科目区分の卒業要件単位数を記入してください。

学部名	単位数
歯学部	51
薬学部	50
医学部	48
工学部(昼間コース)	46
工学部(夜間主コース)	44
工学部(昼間コース)	42
工学部(夜間主コース)	40
工学部(昼間コース)	36
工学部(夜間主コース)	34

3.(1)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

学部名	単位数
歯学部	51
薬学部	44~50
医学部	42~48
工学部(昼間コース)	40~46
工学部(夜間主コース)	38~44
工学部(昼間コース)	36~42
工学部(夜間主コース)	34~40
工学部(昼間コース)	30~36

化学応用工学科	
知能情報工学科	
生物工学科	
総合科学部	28~34

注：単位数欄は、専門的内容を併せ持つ学部開放分野が教養科目の中の1分野であり、同分野は卒業要件の必修科目でなく選択科目となっており、選択した場合は最高6単位まで卒業要件として算入できるため、その単位数を除いた値を示す。

4.(2)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

学部名	単位数
総合科学部	0~6
医学部	
歯学部	
工学部(昼間コース)	
工学部(夜間主コース)	

注：単位数欄の「0~6」は、学部開放分野が教養科目の中の1分野であり、同分野は卒業要件の必修科目でなく選択科目となっており、選択した場合は最高6単位まで卒業要件として算入できるため、その単位数を示す。

4-2-4 一般教養に関する教育の授業科目の履修年次

1	
・「4」を選択した場合、以下の欄に履修年次を記入してください。	
履修年次	

授業科目区分名	授業科目名

授業科目区分名	単位数
歯学部	51
薬学部	50
医学部	48

< 2) 分母を成績判定を行った学生数とした場合 >

授業科目区分名	最 小 値 (%)	平 均 値 (%)	最 大 値 (%)
人文科学分野	78.5	91.4	97.5
社会科学分野	83.1	90.4	94.7
自然科学分野	79.9	86.1	93.9
総合分野	63.3	88.5	100
学部開放分野	52.9	92.2	100
英語	70.2	95.0	100
ドイツ語	78.4	96.2	100
フランス語	73.3	93.6	100
中国語	64.2	95.1	100
健康スポーツ演習	88.5	97.0	100
健康スポーツ実習	86.7	98.9	100
基礎数学	40.7	90.0	100
基礎物理学	76.2	94.7	100
基礎化学	88.4	97.6	100
基礎生物学	96.3	99.4	100
日本語	100	100	100
日本事情	100	100	100

(3) 平成11年度

平均値 (単位)	最大値 (単位)
45.6	73

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

人数区分	授業科目区分名	授業科目名
1. 20名以下	上 限 設 定 な し	
2. 21名以上 ～50名以下	上 限 設 定 な し	
3. 51名以上 ～100名以下	上 限 設 定 な し	
4. 100名超	上 限 設 定 な し	

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1)

1

・「2」を選択した場合

授業科目区分名

・「3」を選択した場合

学部名	授業科目区分名

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(2)

1 3 4 5 6

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(3)

2

(4)

1 3

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。